

ちょうふ環境市民会議・設立総会議事録 &交流会 概要

① 実施概要

○日 時：2009（平成21）年3月15日（日） 12:00～16:00

○場 所：調布市文化会館たづくり12階大会議場

○参加者数：44人（講師1人含む） 事務局・行政：8人

○配布物：「団体・企業のご紹介」「講義パワーポイント資料」「ちょうふ環境市民会議設立議案書」「参加者アンケート」

○参加団体：19団体

・野川とハケ森の会、野川で遊ぶまちづくりの会、かに山の会、身近な川を見守る会、武蔵境通り住民協議会、入間・樹林の会、大気汚染測定運動調布連絡会、環境モニター、アースディ in 調布、雑木林塾、東京電力株式会社、東京ガス株式会社、調布ごみ市民会議、モウリプラント株式会社、環境まちづくり NPO エコメッセ、田んぼの学校、調布の地下水を守る会、環境と未来を考える会、生ゴミ110番調布

○記念講演講師：増原 直樹 氏（早稲田大学客員講師）

○プログラム

12:00 情報バザール

13:00 開会

13:10 記念講演 ～私から始めるエコライフ～

14:00 ワークショップ

～休憩～

15:00 ちょうふ環境市民会議 設立総会

16:00 閉会

16:15 懇親会

② 実施報告 // ③ワークショップでの意見要旨 P. 4-P. 6に記載

- ・12:00の開場とともに会場内に展示されたパネル、配布用のチラシなどを見て、お互いの活動を知るための情報コーナー“情報バザール”が実施された。また、開場時に受付を行い、ワークショップのグループごとのテーブルへ案内した。
- ・13:00の開場の後、司会の安部氏、調布市環境部長より挨拶が行われて、開会。
- ・講師の増原氏を招いて、記念講演“～私から始めるエコライフ～”が開始され、パワーポイントを用いて、環境問題や市民活動についての講義が行われた。
- ・講義後5分間の休憩の後ワークショップが行われた。ワークショップでは身近な環境問題について、今行っていることなどを参加者間で共有し、模造紙に付箋を貼りながら内容をまとめた。
- ・ワークショップでまとめた内容を元に、各グループでグループ発表を行った。
- ・10分間の休憩を挟み、ちょうふ環境市民会議の設立総会が行われた。
- ・これまでの環境市民懇談会での取り組みや、本年度の準備会での取り組みなどの経緯説明の後、岡部氏が議長となって議事が進められた。

ちょうふ環境市民会議設立総会議案

第1号議案	ちょうふ環境市民会議規約（案）
第2号議案	2009年度 事業計画（案）
第3号議案	2009年度 収支予算（案）
第4号議案	役員等の承認

- ・各議案について司会の安部氏より説明が行われ、参加者からの質疑応答が行われた。
- ・質疑応答の後、各議案は拍手をもって承認された。
- ・議長解任の後、設立総会は終了となり役員等の紹介が行われた。

ちょうふ環境市民会議役員 等

代表	安部 宝根
副代表	岡部 和平
副代表	尾辻 義和
会計	鍛冶 直美
事務局長	江刺 益子

- ・設立総会の後、希望者による懇親会が行われた。

③ 設立総会質疑要旨 凡例 ○質問、意見 →回答

第1号議案. ちょうふ環境市民会議規約（案）

- ・司会の安部氏より規約の説明が行われた。
- 第11条“監査役2以内”を“監査役2人以内”に
- 技術的な点として、規約の文章表現として“もの“物”など文言を整理する必要がある。
→修正する。
- 前文の“環境の保全、回復及び創造活動”という部分の“創造”はどのようなイメージか。
→政策提言など、環境に対する活動を新たに作り出す意志の現れとして盛り込んでいる。
- 団体会員でかつ、個人会員という参加の仕方は可能か。
→可能
- 個人会員について、年齢制限はあるか。子ども料金のようなものはないか。
→年齢制限は検討してこなかった。会費については、かなり低く抑えているつもりである。
→幅広い人たちの参加を募るために、今後検討していく。

質疑の後、第1号議案は拍手を持って承認された。

第2号議案. 2009年度 事業計画（案）

- ・司会の安部氏より、事業計画の説明が行われた。
- 雑木林塾の運営について、これまでと同じような内容で行うのか。

→年5回程度で考えているが、あくまで想定であり、決定事項ではない。変更となることもあり得る。

○“その他”が事項としてあげられているが、この意図は何か。

→他に事業として行いたいことが出てくれば入れる、という意図で入れている。

○会員の拡大に努めると有るが、現在の会員数はどのくらいか。

→本日が設立総会なので、会員数は現時点で0。多くの人を勧誘していきたいと考えている。

○広報誌と自然だよりの関係はどうなっているか。

→自然だよりはこれまで市の事業として発行されていたが、事業が終了し、市民が引き継いで発行している。これを継続させるのが自然だよりの発行で、本会議の自然環境に関する部会が活動として行うものとなる。広報誌は本会議全体の活動を扱うので、より広い範囲の環境活動を扱う。

○個人会員は具体的にどのようなことができるか。

→広報誌の配布、交流事業への参加、会議への参加などができるが、できれば部会などに参加して、より興味のある活動に参加してほしい。

質疑の後、第2号議案は拍手を持って承認された。

第3号議案. 2009年度 収支予算(案)

・司会の安部氏より、事業計画の説明が行われた。

○見学ツアーなどの事業は、会費だけで行うのか。

→内容によって、実費をいただくことを考えている。

○助成金をもらうと、活動に制限が出てくるのではないか。

→例えば市から助成金を受け取っても、市に対する提言などに制約がないように努力する。

○個人会員からの会費収入などの根拠はなにか。また、事業収入と事業支出があわないようだがこの根拠はなにか。

→今回は設立総会ということで、まだ活動実績がない中で収支予算を検討してきた。そのため数字はあくまで目標であり、ここを目指して活動をがんばっていききたいと考えている。

○事業収入の事業はどこから発注されるのか。

→調布市の予定。

質疑の後、第3号議案は拍手を持って承認された。

第4号議案. 役員等の承認

・司会の安部氏より、役員を紹介が行われた。

第4号議案は拍手を持って承認された。

以上

④ ワークショップでの意見要旨

A. グループ

○社会的活動

- ・ 緑と生態系の保全への関心
- ・ 空き地への植樹を行う
- ・ 道路の草取り、ごみ拾い、落ち葉掃き
- ・ 生ごみをたい肥に
- ・ 調布の環境基本計画策定に参加
- ・ まちづくり市民検討会に参加
- ・ 職場のエアコン設定（夏28℃冬20℃）

○個人的活動

- ・ 自転車に乗る
- ・ 電灯、エアコン、テレビなどは必要な時につける／こまめに消す
- ・ エコバッグを持つ
- ・ 野菜はなるべく直売所で
- ・ なるべくものを買わない
- ・ ごみは分別、リサイクル

B. グループ

○活動していること

- ・ リサイクル
- ・ 資源ごみの集団回収
- ・ 学校給食の生ごみのたい肥化
- ・ 田んぼの保全
- ・ 防災活動
- ・ 大気汚染測定

○その他

- ・ エコバックを持つ
- ・ ごみの分別、古紙回収、リサイクル
- ・ 生ごみのたい肥化／天日で干す（減量化）
- ・ 照明、電気製品はこまめに消す
- ・ 移動には自転車を使う（できるだけ車を使わない）
- ・ 湯たんぼを使っている
- ・ 家の断熱の工夫
- ・ 風呂水や雨水を再利用する

- ・余分な物は買わない
- ・洗剤は使わず、石けんを使う
- ・近所の農家で野菜を買う

C. グループ

○節水

- ・お皿を洗うときはまとめて洗うように工夫
- ・米のとぎ汁のカン水
- ・（食器の）油汚れはふき取って洗う
- ・入浴はシャワーのみ

○ごみ

- ・できるだけ生ごみを出さない
- ・ごみになるものを家庭に持ち込まない
- ・生ごみは処理機や発酵処理などで減らす
- ・生ごみはたい肥にして活用

○緑をつくる

- ・ベランダで緑のカーテン（ゴーヤ）

○ガソリン

- ・車での長距離移動は夜間に
- ・車の急発進、急ブレーキはしない

○省エネ

- ・トイレのふたを閉める（便座の保温機能）
- ・使っていない電気器具の電源を切る
- ・白熱灯を蛍光灯に変える
- ・こまめに電灯を消す
- ・風呂は同じ時に入る

○樹木の保全

- ・マンションの敷地内の樹木を「市保存樹木」として保全

○その他

- ・エコバッグを持ち歩く
- ・買わない、消費しない

D. グループ

○活動していること

- ・ クリーン作戦に参加（多摩川や野川のごみ拾い）
- ・ かに山の会に参加
- ・ 野川の水生生物の調査
- ・ 環境教育出前授業
- ・ 自然観察会

○その他

- ・ 自転車での移動（自動車を使わない）
- ・ マイバッグや箸を持参する
- ・ トレー付きの食品を買わない
- ・ 電球を蛍光灯に変える
- ・ こまめに電源を切る
- ・ 冷蔵庫の温度調整
- ・ 炊飯器を小さい物に買い換え
- ・ ごみの分別
- ・ 汚水の処理をやっている
- ・ 生ごみを出さない／減らす（庭に埋める、犬のえさにするなど）
- ・ 1日4回室内の換気
- ・ 夏、窓にすだれをかける
- ・ 暖房温度を上げないよう、室内でも厚着
- ・ お風呂に中ぶたをする